

# 自ら考えをもち、表現できる児童の育成

～算数科における  
伝え合う活動を充実させる指導の工夫～



太田市立葦川小学校

## はばプラ特配

- ・再任用教員 (週: 19時間22分30秒勤務)
- 国語担当 ▲算数担当

	月	火	水	木	金
午前	▲	●▲	●▲	●▲	●
午後				▲	●

※年度当初にはばプラ特配と担任で1年間の協働方針を立案

## はばプラ特配の役割

- ・授業参観
- ・示範授業
- ・T T 授業
- ・教材研究
- ・指導助言

## 現状

- はばプラが示す授業改善の方向は理解しているが、実践に結び付けるための一歩が踏み出せない。
- 児童主体の思考場面や対話の場面が少ない。
- 発表する児童が固定的である。

## 成果と課題

- ◎児童の意見交流が日常的に行われるようになり主体的に学ぶ様子が多く見られるようになった。
- ◎教師の授業改善への意識の向上につながった。
- 主体的・対話的で深い学びを促す授業改善を他教科などにも広げていく。



## チェックリスト

- ・はばプラを基に、日々の授業で気を付けたいことを整理
- ・チェックリストの内容を網羅した模擬授業を実施
- ・定期的に自己評価を行い授業改善



チェックリスト				項目	目
5月	7月	10月	12月		
				1	あいさつの前に、ノートを開き、下敷きを入れ、縦線や日付を書かしている。
				2	問題文やめあてを、教師は言いながら書き、児童と同時に書き終えるようにしている。
				3	問題文に、「わかっていること」、「もどめること」に印を入れさせている。
				4	すぐに正解に飛びつかない。えっ、どうして、本当?など問い返している。教師はコーディネーター。
				5	既習事項と比較し、「問い」を児童から引き出し、めあてを決めている。
				6	解決方法の見直しをもたせている。
				7	自力解決では、5分～10分以内と時間をかけすぎない。
				8	解決方法を、図(数直線を含む)や式・言葉で表させている。
				9	1つの方法で解決できたら、他の方法を考えるように促している。
				10	自力解決のときに解答内容を把握し、指名計画を立てている。
				11	ペアやグループで考えを説明し合う。
				12	学習規律(話し方・説明の仕方・聞き方)の指導をしている。良いことは褒めている。
				13	同じ考え方で複数の児童に説明させたり、途中から説明させたり、多くの児童の活躍の場がある。
				14	図だけ、式だけ表示して考えを推測させている。図や式、言葉と関連させている。
				15	根拠(定義や公式、大事なこと、算数用語)を使って、説明できるようにしている。
				16	本時のねらいに結びつく観点から、それぞれの考えのよさや違いに気付かせている。
				17	「まどめ」を児童に尋ねながら仮書をしている。
				18	交流や自己決定の場面が1時間の中に数回設定している。
				19	本時のまどめを使って、練習問題を解かせている。
				20	振り返り(感想など)を書かせている。
				21	既習事項(定義や公式等)、振り返り等のノートを掲示(算数コーナーなど)している。
				22	本時のねらいを明確にしている。教師自身の言葉で言える。
				23	教科書を活用している。(最初から使わない)教科書を破わなくとも落ちなく教えられる。
				24	ノート指導をしている。ノートや宿題のチェックをしている。
				25	マイノート(児童と同じもの)を作成している。
				26	仮書計画を立てている。
				27	

## 大切にしたい手立て

- ・教師のコーディネーター的役割
- ・数学的表現を用いた、根拠に基づく説明の仕方の指導